

若返り証を手に元気はつらつ



「いやあ、なかなかうまくいかねもんですて」「おら、一等らったいね。気分いいもんだて」と、お年寄りたちは、この目ばかりは青年の若さを取り戻したようなはつらつぶり。

九月三日、市役所南隣りの白根公園で、老人運動会が開催されました。今回は、白根市レクリエーション協会が企画と運営を担当、これまでとは一風違った運動会になりました。

それは、これまで体育館で行っていたものを、太陽の下で行い、赤白の二組に分けて競技し、手作りの優勝旗獲得をめざしてもらおうようにしたことからです。

各地区から選抜されたお年寄りは約四百人。白根地区が赤組、八地区からの参加者は白組に分かれて競技しました。「仰げば尊し競争」「魚釣り競争」「ゲートボール競争」など各種目に熱戦を展開。結果は白組の圧勝に終わったものの、青年の若さを取りもどした参加者全員に、若返り証が贈られ、笑顔がみなぎっていました。

健康づくりと、市内のお年寄りが集い親睦を深めるといふ目的は達成できたようです。勝敗にこだわることなく、和気あいあいのなごやかな運動会でした。



健康には人一倍気を使っているだけに、とても73歳とは思えない若々しさの庭山さん



卓球一筋のスーパーじいさん

庭山久作さん (宿直代行員・五六の町)



宿直の日、ひまをみてはスポーツ用具を手入れする



卓球教室は17年間もかかさず指導にあたっている



手を取ってやさしく指導する庭山さん

「兵隊として中国に渡ったときに、初めて卓球を…。昭和十五年、三十二歳のときのことでした。終戦後、手軽にやれるスポーツとして、卓球とテニス奨励されて、急速に普及。二十二年には、五、六人の卓球仲間とともに結成したのが、白根卓球クラブ(現市卓球連盟)でした」と、庭山さん。

二十三年には、白根中学校に卓球部ができ、今井七郎さん(五六の町)と二人でコーチを務め、十五年くらいやったでしょうかね。笠井修作同連盟会長(五六の町)が、まだ中学生でしたよ」

そのころ、全盛期だった庭山さん

「以後は、後進の育成に専念。卓球教室や卓球スポーツ少年団以上の部で三年連続優勝を飾り、二十四年に新潟市で開催されたマスター杯元師杯争奪全国卓球大会にも出場し、活躍されました。」

「丈夫で、今もこうして卓球を続けられるのも、自分の体に合ったスポーツを続けてきたからでしょうね。たばこもやめてますよ」と、庭山さん。今は教育委員会の宿直代行員を勤め、ひまをみては、スポーツ用具の手入れや、運動広場のグラウンド整備に汗するスーパーじいさんです。